

富山県魚津市に漂着したカマイルカの剖検

著者	田島 木綿子, 真柄 真実, 山田 格, 南部 久男
雑誌名	富山市科学博物館研究報告
号	37
ページ	111-113
発行年	2013-06-25
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=989

短 報

富山県魚津市に漂着したカマイルカの剖検*

田島木綿子¹⁾, 真柄 真実¹⁾,
山田 格¹⁾, 南部 久男²⁾

¹⁾ 国立科学博物館 動物研究部
305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1
²⁾ 富山市科学博物館
939-8084 富山市西中野町一丁目8-31

**Note on a Pacific white-sided dolphin
stranded at the coast of Toyama City,
Toyama Prefecture, Sea of Japan.**

Yuko Tajima¹⁾, Manami Makara¹⁾,
Tadasu K. Yamada¹⁾ and Hisao Nambu²⁾

¹⁾ National Museum of Nature and Science, Department
of Zoology; 4-1-1 Amakubo, Tsukuba-shi, Ibaraki
305-0005, Japan
²⁾ Toyama Science Museum; 1-8-31, Nishinakano-machi,
Toyama-shi, Toyama 939-8084, Japan

はじめに

漂着鯨類は、不明な点が多い鯨類の生物学データを提
供してくれる貴重な標本である。筆者らは、富山県、石
川県に漂着した鯨類の一部の個体について剖検を行ない
報告してきた(南部ら, 2005; 真柄ら, 2009, 2010; 田島
ら, 2012a, b)。今回、富山市に漂着したカマイルカ(南
部ら, 2013)は新鮮な死亡個体であったため、計測や剖
検を行ったので報告する。

方法

調査個体は、2012年4月14日に富山市浜黒崎海岸に漂
着した個体で、翌15日には、国立科学博物館へ搬送され、
冷凍された(NSMT M38047)。7月16日に、計測、剖
検が行われた。なお、漂着状況は南部ら(2013)で報告
した。

結果

計測値

1. 性別 メス
2. 体重 64.5kg
3. 計測値 (cm) 左側

体長	174
上顎先端 - 口角	20.5
上顎先端 - 目	24
上顎先端 - 噴気孔	25
上顎先端 - 耳	30.5
上顎先端 - 胸びれ前	39
上顎先端 - 背びれ前	74.5
上顎先端 - ヘソ	82
上顎先端 - 生殖孔	120
上顎先端 - 肛門	126
胸びれ前縁長	30
胸びれ後縁長	19.5
胸びれ基底長	11.5
胸びれ最大幅	9
背びれ基底長	28
尾びれ最大幅	35
尾びれ前縁長	左29, 右30
尾びれ基底長	左15, 右15
尾柄幅	3.5

剖検結果

1. 外貌所見
 - 外形：表皮は全身性に残存し、体色が確認できる。体
形は滑らかな流線型を呈し、削瘦または膨満なし。
 - 外傷：同種の歯によると思われる平行な4-5本の線状
咬傷跡左右体側に数カ所認める。頸部に沿って
線状凹状羅網跡を認める。外部寄生虫なし。
 - 脂皮：湿潤性および弾力性健在。著変なし。
 - 筋肉：暗赤褐色を呈し、弾力性に健在。著変なし。
 - 乳腺：表面および剖面ともに桃色を呈す。未発達。
2. 内臓所見
 - 胸腔：各臓器の位置関係は著変なし。
 - 腹腔：各臓器の位置関係は著変なし。
 - 〈消化器〉
 - 肝臓：辺縁鋭。表面および剖面は暗赤茶色を呈し、弾
力性健在。著変なし。
 - 食道：粘膜は白色角化上皮が裏打ちする。弾力性健在。
著変なし。

* 富山市科学博物館研究業績第453号

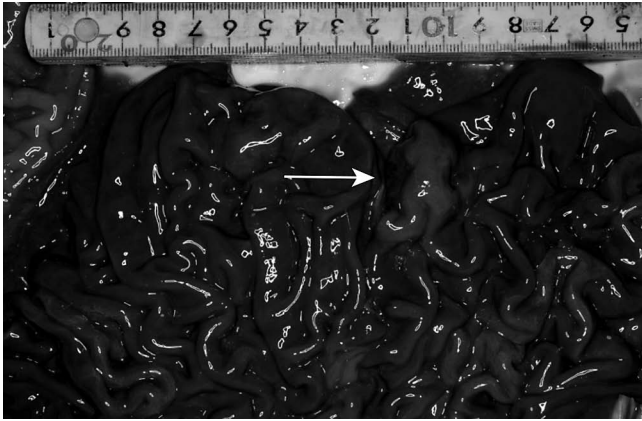


図1 主胃に認められた潰瘍（矢印）



図2 肺気腫が認められた肺

胃：前胃；内容物はアジ科マアジと思われる未消化な個体13匹，多量の暗灰色流動物および十数隻の *Anisakis* sp. 線虫をそれぞれ認める。粘膜は白色角化上皮が裏打ちする。弾力性なし。主胃；内容物は暗灰色流動物。粘膜は灰赤桃色を呈す。径1cm大に至るクレータ状潰瘍を3，4個認め，*Anisakis* sp. 線虫が食い込むものもある。幽門胃；粘膜は緑黄褐色を呈し，弾力性に乏しい。

腸管：十二指腸膨大部；粘膜は淡黄褐色を呈し，弾力性に乏しい。それ以下の部分；ガス貯留なし。内容物は全長に渡り茶灰色流動物が存在する。上部粘膜には鉤頭虫数隻が食い込む。

脾臓：弾力性健在。表面および断面ともに灰桃色を呈し，小葉構造明瞭。寄生虫認められず。

〈泌尿生殖器〉

腎臓：左右ともに断面において皮質は赤褐色，髓質は暗赤色をそれぞれ呈し，境界明瞭。著変なし。

膀胱：尿貯留なし。粘膜は淡桃色を呈し，弾力性健在。著変なし。

卵巣：左右ともに表面平滑。黄体および白体なし。

子宮・膈：子宮角の左右差なし。粘膜は淡桃色を呈す。未成熟。

〈循環・呼吸器〉

心臓：外形正常。心筋は赤褐色を呈し，弾力性健在。心内膜，各弁，大血管内膜それぞれに著変なし。

肺：左右葉の表面および断面ともに一様に淡桃色を呈す。断面はスポンジ様で著しく含気性に富む（気腫状）。気管から肺胞に至る気道内には白色泡沫状物が少量貯留する。気道粘膜著変なし。

〈内分泌器〉

甲状腺：外形は左右対称のまが玉状を呈す。表面および断面ともに暗赤色を呈し，弾力性健在。著変なし。

副腎：断面において皮質は灰桃色，髓質は灰赤色をそれぞれ呈し，境界明瞭。

〈リンパ器〉

脾臓：外形は球状を呈す。断面は暗赤色を呈し，脾粥に富む。著変なし。

胸腺：塊状に明瞭。淡桃色を呈す。表面および断面において小葉構造明瞭。

腸間膜リンパ節：帯状に存在。軽度腫大する。断面は淡黄褐色を呈し，浮腫状。

肺辺縁リンパ節：軽度腫大する。断面は赤桃色部と淡黄褐色部が不規則に混在，浮腫状。

肺門リンパ節：軽度腫大する。断面は赤桃色部と淡黄褐色部が不規則に混在，浮腫状。

浅頸リンパ節：軽度腫大する。断面は赤桃色，浮腫状。

脾臓リンパ節：軽度腫大する。断面は淡黄褐色で，黒色点状部（炭粉沈着）が数カ所不規則に混在，浮腫状。

〈頭部〉

頭蓋洞：翼状洞に寄生虫なし。粘膜は著変なし。

中枢神経系：外形正常。硬膜うっ血する。

音響脂肪メロン部：広範囲にうっ血する。

考察

本調査個体は比較的新鮮な個体であったため，詳細な病理解剖を実施することが出来た。本個体は，生殖腺の所見より未成熟個体と判断される。頸部に認められた羅網跡，未消化な個体を含む豊富な胃内容物，頭部の音響脂肪メロン部にうっ血の所見により，なんらかのトラブルにより死亡した可能性がある。カマイルカ漂着死亡個体に認められる高度な肺気腫はカマイルカ特有の肺の所見であるが，いまだにその病態生理は不明である。主胃に認められた *Anisakis* sp. 線虫によるクレータ状潰瘍は偶発病変であるが，カマイルカにおけるアニサキス性潰

瘍の報告は少なく、記録に値する。

謝辞

調査に際し、富山県河川課防災係にご協力いただきました。心よりお礼申し上げます。

文献

真柄真実・田島木綿子・谷田部明子・山田 格・坂井恵一・福島広行・横井将大・吉田俊憲・台蔵正一・南部久男，2009. 石川県珠洲市に漂着したオウギハクジラ. 富山市科学博物館研究報告，32：117-120.
真柄真実・栗原望・山田格・南部久男・石川雄士，2010. 富山県氷見市に漂着したハンドウイルカ. 富山市科学博物館研究報告，33：109-112.
南部久男・田島木綿子・新井上巳・山田格・田中豊・大田希生，2005. 富山湾における鯨類の記録，2004年.

富山市科学文化センター研究報告，28：91-94.
南部久男・田島木綿子・山田格，2012. 富山湾における鯨類の記録（2011）. 富山市科学博物館研究報告，35：103-105.
田島木綿子・谷田部明子・角田恒雄・台蔵正一・南部久男・山田格，2007. 石川県志賀町に漂着したオウギハクジラ. 富山市科学文化センター研究報告，30：85-87.
田島木綿子・山田格・角田恒雄・新井上巳・梅谷綾子・小松由章・東出幸真・南部久男，石川県輪島市に漂着したナガスクジラ *Balaenoptera physalus*. 富山市科学博物館研究報告，35：109-111.
田島木綿子・山田 格・南部 久男，富山県魚津市に漂着したハナゴンドウ *Grampus griseus*. 富山市科学博物館研究報告，35：107-108.